

すず き ひさ いち ろう
鈴木久一郎

島田町に光を与えた殖産興業の人
— 島田紡績所の創業者 —



鈴木 久一郎 (1845 ~ 1904)

出典：創業者鈴木家にて1990年筆者接写

■ 島田紡績所を島田宿に出願

鈴木久一郎は、1845(弘化2)年、駿河国志太郡島田宿(現・島田市)で醤油業を営む鈴木家で出生する。久一郎は特別な教育を受けたわけではないが、大井川の川越人足が数百名も居る島田宿で育ったことから、剛毅と侠気、人情と孝行の人であったと言われる。

久一郎34歳となった1880(明治13)年1月、明治政府の紡機払い下げの情報を知り、その願いを県庁に出願する。久一郎はそれまでも、失業した大井川の川越人足救済のための茶園を開墾して従事させ、製茶事業の振興を図っているが、こうした地域振興を常に視野に入れていた人物であった。

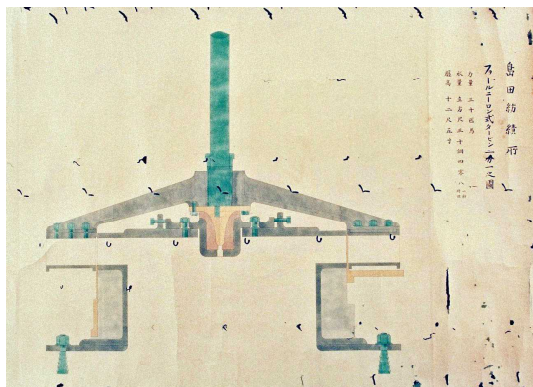
その紡機払い下げ願書に記された理由は二つあった。一つは当地方は綿花の産地であること、もう一つは大井川の水量が豊富なることであった。この水量豊富については開業後も恩恵を受け続け、ほかの初期綿糸紡績所が水量不足に悩まされる中、良好な経営の基盤となった。

一方、久一郎は紡績だけでなく、紡績所出願2年前には

は大井川に架橋を試み、さらに出願と同じ年には、川の全幅に架橋して地域に恩恵をもたらしている。

■ 初期綿糸紡績所の一つ島田紡績所の建設、開業

島田紡績所の建設では、ここも初期綿糸紡績所建設の立役者である石河正龍が関わり、その工場立地を水利の観点から、出願と同じ年の1880年8月に決定している。その後少し時を要したが、3年後の1883年2月に工場建物を完成させ(図参照)、同年8月に2000錘のミュール精紡機ほかの紡績機械を設置する。動力には官営の愛知紡績所と同じく横須賀造船所で製造したタービン水車(図参照)を同年11月



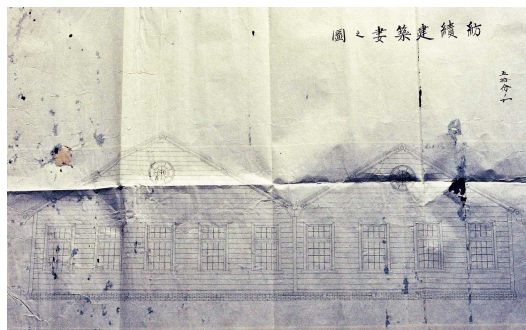
島田紡績所のタービン水車

出典：創業者鈴木家にて1990年筆者接写

に設置し、翌1884(明治17)年6月に初期綿糸紡績所の一つとして開業することになる。

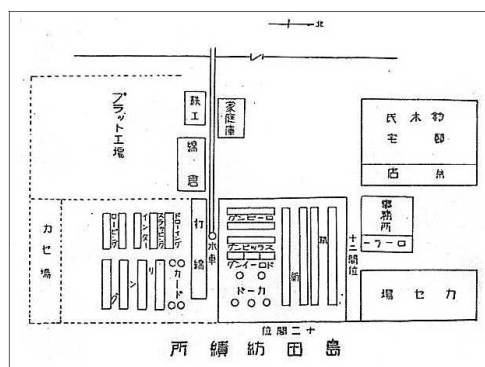
開業までに当初予算2万円を大幅に超える5万円近くかかったことで久一郎は一時苦境と

なる。しかし豊富な水量のおかげもあって営業は順調に推移し、1887年には機械代金の総てを政府に返納するまでに回復する。



島田紡績所ミュール工場表面の図面

出典：創業者鈴木家にて1990年筆者接写



島田紡績所、工場・機械配置図

出典：『本邦綿糸紡績史 第3巻』1938年

■ 日英水電小山発電所の開設にも尽力

島田紡績所はその後、1890(明治23)年に新式のリング精紡機を英国より導入して増設を図っている。その前年にはダイナモを購入して紡績工場と邸宅にアーク灯を設置して、島田地域に近代化の兆しを告げている。これが高じて1897(明治30)年には、大井川の上流上川根村(現・榛原郡川根本町)に用地を買収して、大井川水系最初の発電所となる小山発電所建設にも乗り出している。しかし志し半ばの1904(明治37)年5月に久一郎が逝去(享年60歳)したこともあり、1912(明治45)年の完成前に日英水電に権利が譲渡されることになる。後に島田地域にその光が届いたことまでは目にできなかったが、久一郎の志は繋がることとなった。

鈴木久一郎は川越え人足救済と茶園振興、架橋、紡績所開業、発電所建設と、島田に光を与え続けた人物であった。